

美術研究所報

伊藤所長退官

東京国立文化財研究所長伊藤延男は昭和六十二年三月三十一日付で退官し、後任に奈良国立博物館長濱田隆が就任した。

美術部・情報資料部所員異動

昭和六十二年三月三十一日付で美術部長柳澤孝は停年退官、情報資料部長宮次男は退職し、四月一日付で美術部第一研究室長関口正之は美術部長に、美術部主任研究官三宅久雄は美術部第一研究室長に昇任した。

昭和六十三年一月一日付で情報資料部写真資料研究室研究員鈴木廣之は情報資料部主任研究官に昇任した。

美術部・情報資料部公開学術講座

第二十一回公開学術講座を昭和六十二年十一月十四日(土)午後、日本経済新聞社小ホールにおいて左記のとおり開催した。

明治洋画と歴史画 三輪英夫
近代中国における西洋画の受容 鶴田武良

昭和六十二年(第十一回)文化財の保存と修復に関する研究のための国際研究集会

本研究所主催の表記国際研究集会は美術部・情報資料部の担当により「日本・東洋美術における転換期の諸問題」をテーマとして左のとおり行なった。

期間 昭和六十二年十月二十七日～十月二十九日
会場 東京国立博物館大講堂
十月二十七日 基調報告(午前) 司会 関口正之

濱田隆(所長) 日本美術史における転換期の問題について—古代より中世へ—

第I部会(午後) 司会 秋山光和、S・アデイス

- 1 関口正之(美術部) 平安時代末期の仏画に関する問題点
 - 2 M・グレイビル(カリフォルニア大学) 信実と後鳥羽院
 - 3 小川裕允(東京大学) 牧谿筆『観音猿鶴図』の祖型について
 - 4 J・ヘイ(ニューヨーク大学) 趙孟頫—元初における伝統と自我—
- 十月二十八日 第II部会(午前) 司会 山本信吉、宮次男

- 1 S・アデイス(カンサス大学) 江戸時代初期への移行期における禅の書画
 - 2 佐藤昭夫(東京国立博物館) 仏師の動向—江戸から明治へ—
 - 3 坂本満(お茶の水女子大学) 江戸から明治にかけての絵画表現について
- 第III部会(午後) 司会 島田修二郎、J・ヘイ

- 1 吉田友之(帝塚山学院大学) 金碧画の形式—室町前期和様絵画の動向—
- 2 清水義明(プリンストン大学) 応永—文安期の詩画軸型式水墨画の諸問題—とくに言語介入を併う観画経験の一例として—

- 3 河合正朝(慶応義塾大学) 小栗宗湛と狩野正信
- 4 辻惟雄(東京大学) 狩野派の成立—社会的存在としての—

- 1 十月二十九日 第IV部会(午前) 司会 田辺三郎助、M・グレイビル
- 1 姜友邦(大韓民国国立中央博物館) 統一新羅初期の様式的変化
- 2 紺野敏文(慶応義塾大学) 奈良時代後半から平安時代初期への転換期の諸問題—木彫の成立に関して—
- 3 三宅久雄(美術部) 浄土宗成立期における彫刻界の動向

総合討議(午後) 司会 関口正之、清水義明、辻惟雄、柳沢考

研究会 昭和六十二年

- | | |
|---------------------------|-------|
| 五月 六日 東洋美術における転換期の諸問題 I | 鈴木 廣之 |
| 五月二十七日 東洋美術における転換期の諸問題 II | 三宅 久雄 |
| 六月二十四日 墨の変容—近代の水墨— | 佐藤 道信 |
| 七月二十九日 モノクロームの絵画—水墨の諸問題— | 島尾 新 |
| 十二月二十三日 徳川慶喜の油絵について | 山梨絵美子 |